

## 平成 29 年 12 月部課長会（議事要旨）

### 1. 市長訓辞

#### 1. 人事評価

人事評価の際には、面談をしっかりと実施して、なぜそうした評価になったかを伝えて欲しい。面談は部下とのコミュニケーションの機会となるので、大切にほしい。

また、職員が本業以外で頑張っていることがあれば、遠慮させずに背中を押してあげて応援してほしい。本業以外のことに積極的に取り組んでいる職員は、裏を返せば本業もしっかり出来る職員である。

#### 2. 本日のテーマ「市民との協創」

- ・ 4 月部課長会の復習となるので、事例発表を参考にそれぞれの所属で実践していただきたい。「市民との協創」について常に、自分のところで何が出来るかを考えてほしい。

### 2. 副市長から

- ・ 管理職を始め、職員全員に挨拶をしっかりとっていただきたい。
- ・ 人事評価の結果について、改めて精査をお願いしたい。
- ・ 条例などの大きな案件は、理事者協議を計画的に行っていただきたい。

### 3. 事例研究・意見交換

#### 市民との「協創」（市民活動推進課・市民活動推進センター）

<概要>

- ・ 別添パワーポイント資料
- ・ 事例発表（いこまの魅力創造課）（みどり公園課）（地域包括ケア推進課）（都市計画課）（環境モデル都市推進課）（図書館）（生涯学習課）

#### まとめ

<概要>

（水道事業管理者）

「協創」とは、もう一歩先にある新たな価値観を生むものである。組織の外に耳を傾けて、広い視野を持って取り組んでいただきたい。

(教育長)

今、教育現場では、教員の働き方改革の動きがある。教員の負担がどんどん増える中で、今まで教員がやっていたことを、地域の方々に担ってもらわなければ、回っていかない。そうした、危機感を持っている。

教育委員会で、ワークショップを行う時には、単なる意見の集約で終わらず、自分たちで出来ることを挙げていただいている。実際に実践することが大切であり、職員は、ワークショップを通じて、人材を発掘し、その人材をつなげるコーディネーター役を担っていただきたい。

(副市長)

・ワークショップをする時には、管理職を含む職員自らがその中に入り、意見を言って議論を重ね、時には、市の窮状を訴えることが必要であり、管理職には、職員の方々を、外に出して、市民と対峙させていってほしい。市民との関わりが薄いと思っておられる課もあるだろうが、その課で市民と関わることが、必ずあると思う。

・市民活動推進課と市民活動推進センターは、「待ち」の姿勢を取るのではなく、人と人をつなぐコーディネーターとして、「こんな人がいないか」とか、また、「こんな人がいる」との情報提供もしてほしい。各課からもどんどん、問合せをしていただきたい。一つの所属だけでは取り組めない、部をまたがった「協創」を作っていくことが、市民活動推進課と市民活動推進センターの業務である。

・市長のマニフェスト「みんなで創る、日本一楽しく住みやすいまち『生駒』」は、まさに、「市民との協創」のことを指している。まずは、職員が動き出す、汗をかく、これがないと、市民に動いてもらうことはできない。

(市長)

・「協創」とは、市民と共に創り上げていくことであり、国や都道府県では、出来ない、現場に近い市の職員だからこそできることである。面白い人を見つけて、つなげていき、話を聞きながら、どのように具体化していくのかということ意識する。時には、関係課へつないでいく。これが、市の職員の仕事であり、一番のやりがいである。常に、自分の課で、どのような「協創」が出来るのか、考えてほしい。

・「協創」を具体化する場を作ることや出た意見を具体化することが、市役所の仕事である。ワークショップの輪に職員も参加するのは当たり前のことであり、出た意見をそのまま受ける必要はなく、出来ないことは出来ないと伝えればいいし、行政だけでなく市民にも汗をかいて下さいとお願いしても良い。きちんと、自分の言葉で意見を言うことが大事である。